地域連携パスのご案内

「地域連携」とは患者さんを中心に地域の医療機関と情報交換を行い、より良い医療と安全を提供する仕組みです。「地域連携パス」は、関係する医療機関が一緒に作った“地域連携計画書”のことです。

患者さんのメリット

かかりつけ医と兵庫県立淡路医療センターとを定期的に受診することで、患者さんの主治医が複数になる（味方が増える）と考えることができます。地域連携パスを利用することで、患者さんやご家族のお話をもっとお聞きできるようになるものと考えています。

地域連携パスの利用

淡路医療センターは、地域連携パスが患者さんの療養生活や診療の方針にあっているかどうかを検討し、利用した方が良いと考えた場合におすすめしています。関係する医療機関、患者さん・ご家族と相談しながら運用し、変更・中止の申し出にも応じます。緩和ケアが必要となった場合には、患者さん・ご家族の状況に合わせて個別の対応となりますが、かかりつけ医を中心とした安心できる療養環境を提供します。

当院はこれまで連携したパスは大腸癌・胃癌・肺癌・前立腺癌・脳卒中・大腿骨頸部骨折などがあります。他に県立がんセンターとも乳癌の連携パスを行っています。

曽山医院 勤続３０年を振り返って

平成５年３月から曽山医院に勤務させて頂き３０年が経過しました。これだけ長く勤められたのも院長をはじめスタッフの皆さんのサポートがあればこそで、とても感謝しています。

長い勤務の間、色々ありました。主人や母、スタッフとの悲しい別れもありました。患者様との出会いは喜びや悲しみもありましたが、疲れていても患者様の笑顔や言葉で、すごく元気をもらっています。

本当は反対に私から励ましの言葉や優しい態度で接する事が大切なのに、笑顔を頂いた事は心が温かくなり、また頑張ろうと励みになりました。

新しい知識や技術力を身につけスキルアップし、あとどれくらい勤務できるか分かりませんが、スタッフの皆さんとコミュニケーションを取りながら向上心を持ち続けたいです。

曽山医院での色々な接遇や学びは私にとっては一生の宝物になりました。迷惑もおかけしましたが、スタッフの皆さんと一緒に曽山医院を盛り上げて行きたいです。患者様、これからも気軽に声を掛けて下さいね。

看護師　大畠　とき子

曽山医院開院当初から勤務させて頂き早３１年が経ちました。医療機関で働くのが初めてでしたので当初は毎日が新鮮だったと記憶しています。今とは違ってアナログ時代のため紙カルテ作りから始まり薬や診療内容まで全て手書きという今では考えられない作業をしていたことを思い出しました。

忘れられないのは阪神淡路大震災、そして台風２３号の水害などの自然災害です。

大震災の朝、自宅に被害がなかったので通勤してきたのですが医院内はカルテを始めすべてのものが散乱してとても診療できる状態ではありませんでした。しかし地震で怪我をした人が診てほしいと来られている中、とにかく必死で片づけをしていた光景が脳裏に残っています。

長いようですが今思うと３１年はあっという間で院長を始めスタッフの方々、そして曽山医院に通院して頂いている沢山の患者様など多くの人達に支えられてきました。

この出会いはなにものにも代え難いものになりました。これまで頑張ってこられたのも皆様のお陰だと感謝しています。

これからもどうぞ宜しくお願い致します。

医療事務　原野喜美恵

診療予約はこちらから

電話予約：0799-62-5566（診療時間内）
ネット予約：https://ssc6.doctorqube.com/soyama-clinic/（24時間対応）
＊携帯電話からは右のＱＲコードからでも予約できます＊